

令和 6 年度

「運営に関する計画」

中間評価

大阪市新高幼稚園

令和 6 年 10 月

1 学校運営の中期目標

現状と課題**教育目標****元気に やさしく 考える子ども**

「元気に遊ぶ子ども」「みんなと仲良く遊ぶ子ども」「自分で工夫し、考える子ども」を基に、幼児期にふさわしい「遊びを通した学び」を大切にした教育を推進し、友達や身近な自然、人々との温かいふれあいのある生活体験により、自他共に尊重しあう心を育む。

令和 6 年度のクラス編成は、4歳児 1 学級 13 名、5歳児 1 学級 19 名、計 32 名である。2年保育の就園前の生活経験は様々であるが、4歳児で保護者と初めて離れた幼児が、入園後、安心して幼稚園で過ごせるようになるために、教師は、幼児の内面理解に努め、一人ひとりと丁寧にかかわって興味や関心を探り、生活経験や発達の状況に応じた働きかけを工夫することを大切にしている。

本園では幼児の実態を踏まえ、幼児一人ひとりが、安心して、自分らしさを發揮できるように、幼児が自ら、自分なりのペースで環境（人・もの・こと）に関われるようすることを大切にしている。そうすることで、幼児は、自ら環境にかかわり、「やってみたい」「もっとしたい」という、意欲をもち、試したり、考えたりしながら遊びを繰り返し、いろいろな経験を積み重ねながら沢山のことを学ぶようになるからである。それが、遊びを通して学ぶ姿だと考える。このような姿を育むためには、保護者と連携し、幼児が「幼稚園は楽しい」「友達や先生と過ごすことが楽しい」と感じられる安全・安心な教育環境づくりをすることが大切である。また、教師主導で遊びを与えるのではなく、教師が幼児の思いや願いを汲みとった活動内容や環境構成を工夫することで幼児が主体的に活動できるように働きかけることが必要である。

更に、幼児が自らやりたいことを見つけ、楽しみながら存分に遊ぶようになるためには、十分な遊びの場と時間、多様に人とかかわることができる幼稚園生活の保障が大切であると考える。本園は、各学年が単学級である。少人数であることをメリットと捉え、日々の生活や行事において、4、5歳児の異年齢交流に意図的に取り組む。それを通して、憧れや思いやりの気持ちをいろいろな人とのかかわりに広げ、小学生や未就園児との交流活動にもつなげていく。

令和 6 年度からは、新たな取り組みとして、これまで小学校と地域が行ってきた合同防災訓練に幼稚園も保護者と共に参加する。計画段階から小学校、地域と連携していく。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

令和7年度の保護者アンケートにおいて次の項目について「当てはまる」と回答する割合を80%以上にする。

「幼稚園では、お子さまにとって安全で適切な指導を行い、そのための環境づくりに取り組んでいる」

「幼稚園では、すすんでいきさつをする幼児を育てる取組をしている」

「幼稚園では、保護者と連携し、幼児の思いや願いを大切にした保育の中で、主体的に遊ぶ子どもを育てている」

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

令和7年度の保護者アンケートにおいて次の項目について「当てはまる」と回答する割合を80%以上にする。

「幼稚園では、子どもが自ら興味や関心をもって身近な環境に関わり、主体的に活動する子どもを育てている」

「幼稚園では、遊びを通じた学びを大切にした教育を実践している」

「幼稚園では、基本的な生活習慣を身に付けるような指導を行い、健康的な生活の基礎や体力向上につながる取り組みをしている」

【学びを支える教育環境の充実】

令和7年度の保護者アンケートにおいて次の項目について「当てはまる」と回答する割合を80%以上にする。

「幼稚園では、自ら絵本に親しむ子どもを育てる取り組みをしている」

「幼稚園では、遊びを通して学ぶ子どもの姿を家庭や地域に発信している」

【安全・安心な教育の推進】

令和6年度の保護者アンケートにおいて次の項目について「当てはまる」と回答する割合を80%以上にする。

「幼稚園では、お子さまにとって安全で適切な指導を行い、そのための環境づくりに取り組んでいる」

「幼稚園では、すすんでいさつをする幼児を育てる取組をしている」

「幼稚園では、保護者と連携し、幼児の思いや願いを大切にした保育の中で、主体的に遊ぶ子どもを育てている」

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

令和6年度の保護者アンケートにおいて次の項目について「当てはまる」と回答する割合を80%以上にする。

「幼稚園では、子どもが自ら興味や関心をもって身近な環境に関わり、主体的に活動する子どもを育てている」

「幼稚園では、遊びを通した学びを大切にした教育を実践している」

「幼稚園では、基本的な生活習慣を身に付けるような指導を行い、健康的な生活の基礎や体力向上につながる取り組みをしている」

【学びを支える教育環境の充実】

令和6年度末の保護者アンケートにおいて次の項目について「当てはまる」と回答する割合を80%以上にする。

「幼稚園では、自ら絵本に親しむ子どもを育てる取り組みをしている」

「幼稚園では、遊びを通して学ぶ子どもの姿を家庭や地域に発信している」

3 本年度の自己評価結果の総括

(様式例 2)

大阪市立新高幼稚園 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した C : 取り組んだが目標を達成できなかった	B : 目標どおりに達成した D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった
---	--

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>令和 6 年度末の保護者アンケートにおいて次の項目について「当てはまる」と回答する割合を 80 % 以上にする。</p> <p>「幼稚園では、お子さまにとって安全で適切な指導を行い、そのための環境づくりに取り組んでいる」</p> <p>「幼稚園では、すすんであいさつをする幼児を育てる取組をしている」</p> <p>「幼稚園では、保護者と連携し、幼児の思いや願いを大切にした保育の中で、主体的に遊ぶ子どもを育てている」</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【 1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>園の実態を踏まえた安全指導を行い、保護者と連携して、安全な生活や危機管理への意識を高める。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全指導年間計画を作成し、保護者を含む訓練を年 1 回以上行うとともに安全だよりを年間 5 回以上発行、区役所、関係諸機関と連携した安全指導を年 3 回以上行う。 ・年 2 回、登降園時や通園経路の「ヒヤリハット」を保護者から聞き取り、現状を踏まえて、安全な登降園について啓発する。 ・新高幼小地域の合同防災訓練に計画段階から連携し、園児、保護者と共に参加する。（2 月実施） 	
<p>取組内容② 【 2 豊かな心の育成】</p> <p>園と保護者が連携して、すすんであいさつをする子どもを育てる。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達や身近な人に親しみをもってあいさつを交わす経験ができるよう、年に 3 回以上、朝のあいさつ週間を設ける。 ・異年齢で当番する機会を設ける。 ・PTA と連携し、あいさつ週間に合わせて、保護者の登降園児の安全指導を行い、見守りと共にあいさつ指導を行う。（80 % 以上の保護者が年 1 回以上当番として参画する） 	
<p>取組内容③ 【 2 豊かな心の育成】</p> <p>一人一人の幼児の実態を捉え、思いや願いを大切にした保育を通して、園生活を楽しむ幼児を育てる。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児理解のための検討会を月 1 回実施する。 ・幼児の心と体の安心・安全のために、関係諸機関と連携すると共に、幼児の発達や特別支援に関する研修を全教職員が 1 回以上参加する。 ・個人ファイルに幼児の絵や写真を記録し、園と保護者がそれぞれにコメントを記入して、幼児の遊びを通じた学びを共有し、幼児理解を深める。 	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>取組内容①</p> <p>○安全指導年間計画を作成し、保護者を含む訓練を年 1 回以上行うとともに、安全だよりを年間 5 回以上発行、区役所、関係諸機関と連携した安全指導を年 3 回以上行うについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全指導年間計画を作成し、実施することができた。

そこで実施内容を「あんせんだより」に掲載し、保護者に発信している。

あんせんだより

4月 NO. 1 安心で安全な幼稚園生活を送るために

4月 号外 引き渡し訓練に向けて

5月 NO. 2 非常時の対応について

(幼稚園の避難袋の紹介、避難訓練、引き渡し訓練の報告)

5月 NO. 3 交通安全指導について (園外保育に向けて、道路の歩き方)

9月 NO. 4 地震発生時の対応について (南海トラフ地震を受けて)

・避難訓練や安全指導の内容を紙面で報告し、保護者と共有している。

・進級、入園の登降園時のルールについて「開門時間内の登園」「入園証の携帯」「インターで顔を見せて、クラス、名前、用件を話す」ことを紙面で知らせたところ、保護者の方に協力いただけた。また、小門の扉をしっかりと閉めていただけるようになり、安全性が高まった。

・9月1日よりコドモンを導入した際、登園 QR カードを入園証に入れて携帯してもらうように伝えたことで、更に着用率が高まった。

○年2回、登降園時や通園経路の「ヒヤリハット」を保護者から聞き取り、現状を踏まえて、安全な登降園について啓発するについて

- ・昨年度に引き続き、年2回、登降園時や通園経路の「ヒヤリハット」を保護者から記述式アンケートで聞き取った。記述式アンケートでは新高1丁目の交差点で「歩行者信号が青で横断中に車側の信号も青になり、右折する車がスピードを出して突っ込んで来て危険」という意見が複数あった。また、保護者と公園に出かけている際に滑り台から転落などの報告もあった。アンケートの回答はまとめて保護者に報告し、自分事として共有し、事故防止につなげていきたい。
- ・近年、環境の変化により、園の敷地内にもこれまであまり見られなかった花やキノコ等が自然発生していることがある。幼児が安心して園内の自然環境に触れられるように、園内の安全点検の際にも注意するようにした。(口に入れたり、目などをこすったりしないように注意している)

○新高幼小地域の合同防災訓練に計画段階から連携し、園児、保護者と共に参加する取り組みは、予定通り2月に実施する。

取組内容②

○友達や身近な人に親しみをもってあいさつを交わす経験ができるようにするについて

- ・5歳児は1学期6月に、4歳児は2学期9月に、各1週間、あいさつ当番を行った。幼児がとても意欲的に当番活動をしていた。特に4歳児が、5歳児の姿に憧れの気持ちをもっていたことから、自らあいさつをし、現在は、友達同士でもあいさつを交わすようになった。

○異年齢で当番する機会を設けるについて

- ・今後、異年齢での当番を実施予定。

○PTAと連携し、あいさつ週間に合わせて、保護者の登降園児の安全指導を行い、見守りと共にあいさつ指導を行う。(80%以上の保護者が年1回以上当番として参画する)について

- ・PTAと連携した登校園時の安全指導は、あいさつ週間に合わせて行いたかったが、小さい子どもを連れて参加する保護者もいることから、暑さを避けて、9月末に行った。第1回は、PTAの地域委員会で実施した。通用門の前の道路では端を歩く姿が、正門前の道路では横断に気を付けて登降園していた。それを参考に、次回は、委員会に限らず安全指導に参加し、見守る立場を経験していただくようにしたい

取組内容③

○幼児理解のための検討会を月1回実施するについて

4月 個人懇談会を実施した。特に新入園児は教育相談を含め、家庭での様子も丁寧にお聞きした。保護者の方も幼児も、安心して園生活をスタートできるように、教職員間で共有し、適切な支援ができるようにした。

5月 4月に引き続き、個々の状況の把握をし、共有した。食に苦手意識をもつことがないよう、弁当の量などについても保護者と相談した。その内容を教職員間で共有した。

6月 水を使った遊びが増えることに伴い、健康上の留意点や感覚に敏感な幼児の状況について共有した。それにより、水遊びで汚れた服を着替える機会が増える時期であり、4歳児は、嫌がらず、自分で服を脱ぎ着できるように促した。

7月 個人懇談会を行い、保護者に園での様子を伝えるとともに、必要なことについて共有した。

- ・必要に応じて、視覚教材を作成したり、椅子や机のサイズを調整したりして、合理的配慮を取り入れた環境を整えることができた。
- ・楽しい遊びの中で、水に濡れたり、泥などに触れたりすることに慣れることができるようとした。これまで鼻緒のある草履タイプのビーチサンダルを経験してほしいという園の願いもあり、履くことが難しい幼児には個別に対応していたが、毎年、鼻緒の感覚が苦手で、しっかりと履くことができない幼児がおり、素足での活動が危険であったため、今年度より、サンダルタイプのビーチサンダルを可とした。感覚を気にせず遊ぶ安心・安全のメリットがあったが、一定数草履タイプの幼児もおり、状況に応じた対応が必要であると再確認した。
- ・夏の遊びを通して、汗ばんだり汚れたりした服を着替える経験が十分できたことで、水着の脱ぎ着がスムーズにできた。保護者にもその実態を伝え、風邪をひかない季節にこそ自分で体を拭く経験ができるようにすることを提案した。

○幼児の心と体の安心・安全のために、関係諸機関と連携すると共に、幼児の発達や特別支援に関する研修を全教職員が1回以上参加するについて

- ・特別支援教育に関するオンデマンド研修会を全教職員が受講し、合理的配慮の大切さを再確認することができた。
- ・保護者と関係諸機関、幼稚園でつながり、必要に応じて、保健福祉センターや放課後デイサービスや療育機関等の事業所との連携を進めている。

○個人ファイルに幼児の絵や写真を記録し、園と保護者がそれぞれにコメントを記入して、幼児の遊びを通した学びを共有し、幼児理解を深めるについて

- ・昨年度に引き続き、個人ファイルを作成して幼児の育ちを共有した。
保護者の方との連携で取り組んでいる、長期休業中の「やくそくカレンダー」で、5歳児は、担任から「昨年（4歳児）のときのやくそくよりも、少し難しいこと」を取り上げ欲しいと、具体的に伝えたところ、多くの家庭で、実践していただくことができた。2年分が、ファイルに保存されているので、見比べて成長を感じることができるようになっていた。
- ・学期に1枚、幼児の遊びの姿を写真入りでファイリングしている。今回は、写真を見て、保護者の方がコメントを書き、そこに返すかたちで担任、養護教諭、園長がコメントを書き、一人ひとりの幼児の育ちについて共有した。

最終評価への改善点

取組内容①

- ・通園途中のヒヤリハットについては、保護者の方にも、少し遠回りになっても、安全な経路を選択していただくことが可能であれば、別の視点での安全対策も提案する。

- ・安心、安全に園で過ごせるよう、今後も家庭での様子を聞き、保護者と連携しながら一人ひとりの実態を把握し、合理的配慮につとめていく。

取組内容②

- ・12月には異年齢でのあいさつ当番を計画している。また、3学期には希望制によるあいさつ当番を実施し、積極的な参加を期待している。

取組内容③

- ・個人ファイルへの感想も保護者に聞き、良かった点と改善点を明確にしてよりよい活用をしていく。

(様式例 2)

大阪市立新高幼稚園 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった	
年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>令和 6 年度末の保護者アンケートにおいて次の項目について「当てはまる」と回答する割合を 80 % 以上にする。</p> <p>「幼稚園では、子どもが自ら興味や関心をもって身近な環境に関わり、主体的に活動する子どもを育てている」</p> <p>「幼稚園では、遊びを通した学びを大切にした教育を実践している」</p> <p>「幼稚園では、基本的な生活習慣を身に付けるような指導を行い、健康的な生活の基礎や体力向上につながる取り組みをしている」</p>	
<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p>	
<p>取組内容①【3 幼児教育の質の向上】</p> <p>就学前教育カリキュラムを参考にし、園の実態を踏まえて教育課程を見直す。</p> <p>指標・子どもが自ら身近な自然に興味や関心をもち、遊びに取り入れられるよう、学期に 1 回以上、園内の環境を見直す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校との連携に取り組む。（年間 2 回以上の幼児・児童の交流活動、1 回以上の教職員の交流を実施する） ・園の特色や幼児の姿を踏まえて行事のねらいや活動内容を見直し、教育課程に反映する。 	進捗状況
<p>取組内容②【5 健やかな体の育成】</p> <p>一人一人の実態を踏まえて、遊びの中で、多様に体を動かすことを楽しめるよう教材や環境を工夫する。</p> <p>指標・毎月の誕生会や集会を活用し、園全体で遊びを共有しながら、友達と一緒にダンスや体操を楽しめるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全に遊ぶことができるよう、安全点検（毎日、毎月）をし、環境を整える。 	
<p>取組内容③【5 健やかな体の育成】</p> <p>基本的な生活習慣を身につけるとともに、心の健康を育む。</p> <p>「早寝、早起き、朝ごはん、排泄、歯みがきの指導の継続と、生命（いのち）の安全教育を通して心の健康を図る。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期に 1 回程度、基本的な生活習慣に関する指導を継続し、基本的な生活習慣の大切さを知らせる。 ・文部科学省の教材などを活用しながら、年 2 回程度、生命（いのち）の安全教育を行い、自分を大切にする気持ちをもたせる。 	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>取組内容①</p> <p>○子どもが自ら身近な自然に興味や関心をもち、遊びに取り入れられるよう、学期に 1 回以上、園内の環境を見直すについて</p>	

- ・進級児は、昨年植えたパンジーやビオラ、チューリップやジャガイモを引き続き育てた。4月からは、進級・新入園児ともに、幼児が身近な自然と触れ合うことを通して、好奇心や探求心を育めるよう、計画的に、種をまいたり、苗を植えたりして、季節の自然が環境から途絶えないようにしている。個人でも夏野菜の栽培をし、1学期中に全員が育てた野菜を収穫することができた。

今年度栽培する野菜や花

コダマスイカ・マクワウリ・ナス・ミニトマト・ゴーヤ・インゲンマメ・エダマメ・ブロッコリー・ミズナ・カリフラワー・サニーレタス・ダイコン・ニンジン・ゴボウ・ホウレンソウ・コマツナ・サツマイモ・ソラマメ・ジャガイモ・タマネギ・スナップエンドウ・アスパラガス・ササゲ・ピーマンなど

パンジー、ビオラ、マリーゴールド・センニチコウ・アサガオ・コスモス・ヒヤシンス・フウセンカズラ・クロッカス・チューリップ・ナノハナ・ヒマワリなど

(その他、園内の果樹)サクランボ、ヒメリンゴ、ミカン、ザクロ、ビワ

- ・野菜や花を栽培するだけでなく、自然に生えてきた草花、雑草、野草なども大切にし、幼児が身近な自然に触れ、何を感じているのか、何を面白いと思っているのか、幼児の気持ちに寄り添うことを大切にした。4歳児は、見て、触って、嗅いで、比べて、集めて遊び、その中で気付いたことを友達や教師に伝えて充実感を味わっていた。身近な自然に興味や関心をもち、じっくりと関わっている姿から、好奇心の芽生えが見られた。5歳児は、自然と触れ合って気付いたことを、他者に知らせながら、さらに、収穫できた野菜や種を数えたり、考えたこと、不思議に思ったことなどを調べたり、試したりする姿が見られた。サクランボやビワを収穫したことで種に興味をもち、弁当に入っているデザートの種や自宅で食べた野菜や果物の種を持ってきて、植えてみて、生長の過程を観察していた。メロン、スイカ、カボチャ、トマトは発芽し、プランターに植え替えて経過を見たが、最後までは育たなかった。どうすればよかつたのかを幼児が自ら考える機会となり、夏野菜の世話を熱心にする姿につながっていた。このような姿から、探究心の芽生えが見られた。

○小学校との連携に取り組む。(年間2回以上の幼児・児童の交流活動、1回以上の教職員の交流を実施する)について

- ・小学校との連携に取り組む。(年間2回以上の幼児・児童の交流活動、1回以上の教職員の交流を実施する)

園内ではなぜ?と思ったことを小学校の校長先生に聞きに行く、小学生の運動会の練習が始まると見に行くなど、新高小学校に臨機応変に対応していただき、自然な交流活動をすることができた。

(今後の予定)

1月…2年生「地域探検」 1月…避難訓練 2月…地域・幼小防災訓練

給食についてのお話、授業見学(5歳児)など

○園の特色や幼児の姿を踏まえて行事のねらいや活動内容を見直し、教育課程に反映するについて

- ・園内だけでなく、新高中央公園、新高公園、堀上児童遊園など、地域の公園に出かけ、春と秋の自然に触れられるように計画をした。草花の色別に採取したり、そこに生えている植物の名前を調べようとしたりしていた。
 - ・5月には、PTAと共にふれあい園外保育を実施し、保護者とともに万博記念公園に出かけた。活動場所は芝生の広場に限定し、付近の自然散策を楽しむことができた。秋に園児だけで園外保育に出かけること也有、「春との違いに気付く」という活動内容も予測しての行先設定であった。また、活動場所が安全である、自然に触れられる、今後の園外保育に向けて親子で電車移動の経験ができる、ラッシュで混雑する方向とは逆方向である、などのメリットがあったが、日頃から歩き慣れていない方も多く、遠く感じたという意見があった。今後の検討事項にしたい。
- 以上のような取組を取り入れたうえで、さらに知・徳・体のバランスの取れた教育課程となるよう、見直している。

取組内容②

○毎月の誕生会や集会を活用し、園全体で遊びを共有しながら、友達と一緒にダンスや体操を楽しめるようにするについて

- ・誕生会では毎月、新しいダンスや体操を紹介し、異年齢で交流しながら遊べるように工夫した。9月には、運動会の保護者参加プログラムの「いっしょにプレイパーク」を誕生会で経験してから保護者との練習にのぞむことができた。

4月 どうぶつ体操 5月 すすめ！ダンゴムシ 6・7月 ペンギンのプール体操

8月 わんぱく体操 9月 いっしょにプレイパーク 10月 ケラケラじゃんけん

○安全に遊ぶことができるよう、安全点検（毎日、毎月）をし、環境を整えるについて

- ・日ごろより、園庭の大型遊具、その他の遊具、砂場、園舎内についても安全点検と衛生管理を毎日、詳細な点検を月に1回行っている。今年度は、園庭に生えた害のある植物の点検除去も行っている。

取組内容③

○学期に1回程度、基本的な生活習慣に関する指導を継続し、基本的な生活習慣の大切さを知らせるについて

- ・基本的生活習慣に関する保健指導を学期に4回行った。

4月 早寝、早起き、朝ごはん 5月 手洗いの仕方

6月 むし歯の予防、歯のみがき方 9月 排便について

絵本や紙芝居、視覚教材を多く用いながら指導したことで子どもに分かりやすく伝えることができ、手洗いの際に石鹼を使って丁寧に手を洗っていたり、歯みがきの際に手洗い場の鏡や歯のみがき方の掲示物を見ながら歯をみがいたりする姿が見られるようになった。また、保護者から、朝ごはんをしっかり食べるようになった、家でも丁寧に手を洗っている、朝に便が出るようになったとの声を聞くことができた。

○文部科学省の教材などを活用しながら、年2回程度、生命（いのち）の安全教育を行い、自分を大切にする気持ちをもたせるについて

- ・10月に1回目の生命（いのち）の安全教育を実施し、体の各部位の名称を知らせる指導を行い、体のどの部位も大切な、自分の体を大事にしてほしいということを伝えた。また、幼稚園でよく起こる怪我から、怪我をした時にどの部位を怪我したのかを大人に伝えることも体を大事にすることの1つであるということも伝えたところ、怪我をした子どもが体のどこを怪我したのかを言う姿が少しづつ見られるようになった。

最終評価への改善点

取組内容①

- ・引き続き、毎月の安全点検において環境整備を行う
- ・猛暑の夏を経て、急にキノコが増殖した。食べなければ害はないとは言え、発見するたびに除去した。これまでの安全管理に加え、外来種等の危険な植物等への認識を高める必要があると分かった。今後も点検に気を付けていきたい。

取組内容②

- ・今後も引き続き、誕生会でダンスや体操を紹介する。
- ・寒くなってきた頃には、鬼遊びや、ボールを使った運動遊びなど、十分に体を動かす取り組みについてより環境を工夫したりする。

取組内容③

- ・11月に、安全・安心につながるために、プライベートパートについて、絵本を用いた指導を行う予定にしている。

(様式例 2)

大阪市立新高幼稚園 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>令和 6 年度末の保護者アンケートにおいて次の項目について「当てはまる」と回答する割合を 80 % 以上にする。</p> <p>「幼稚園では、自ら絵本に親しむ子どもを育てる取り組みをしている」</p> <p>「幼稚園では、遊びを通して学ぶ子どもの姿を家庭や地域に発信している」</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【8 生涯学習の支援】</p> <p>絵本室を活用して、絵本に親しむ子どもを育てる。</p> <p>指標・週 1 回、絵本貸出しを実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 年に 1 回以上、保護者による絵本整理を行う。 年に 3 回以上、ふれあい絵本貸し出しを実施し、家庭と連携して絵本に親しむ子どもを育てる。 	
<p>取組内容② 【9 家庭・地域等と連携・協同した教育の推進】</p> <p>保護者や地域と連携して、子育て支援を行う。</p> <p>指標・毎月「にいたかようちえんだより」を発行し、地域の方に園の教育内容や子育てに関する情報を発信する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「にいたかランド」「ももキッズ」等、地域の未就園児が参加できる活動を実施する。(ホームページ等で情報や取り組み内容を発信する) 保護者アンケートの「ホームページは、幼稚園の教育内容や遊びを通して学びの発信に生かされている」項目で、当てはまると回答する割合を 85 % 以上にする。 	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
取組内容①
○週 1 回、絵本貸出しを実施するについて
・週 1 回、絵本貸出しを実施した。幼児が自分で借りたい本を選ぶ中で、同じ絵本を繰り返し借りる幼児もあり、ストーリーや絵など、本の内容への関心が高まることでお気に入りの一冊ができると分かった。
○年に 1 回以上、保護者による絵本整理を行うについて
・年に 1 回以上、保護者による絵本整理を行うという指標については、今年度は、PTA 学級委員会で、主体的に整備を推進していただいた。整備されることで、絵本が選びやすくなった。
○年に 3 回以上、ふれあい絵本貸し出しを実施し、家庭と連携して絵本に親しむ子どもを育てるについて
・ふれあい絵本貸し出しを 1 学期に 2 回行った。 6 月 24 人参加 (75%) 7 月 16 人参加 (50%) 昨年度よりも参加者が増えている。 7 月は、周知期間が短かった。余裕をもってお知らせすることが大切である。 少しづつ文字が分かるようになると、子どもに自分で読ませたいと思いがちであるが、絵本貸し出しを通して、読み聞かせが大切であることを伝えていく必要がある。

取組内容②

○毎月「にいたかようちえんだより」を発行し、地域の方に園の教育内容や子育てに関する情報を発信するについて

- ・毎月、幼稚園の様子とともに、「にいたからんど」「ももキッズ」の実施・募集について周知した。
- ・地域の方にどのようなことを発信しているか、保護者にも分かっていただけるように「にいたかようちえんだより」を園児にも配布するようにした。

○「にいたかランド」「ももキッズ」等、地域の未就園児が参加できる活動を実施する。
(ホームページ等で情報や取り組み内容を発信する)について

- ・「にいたかランド」「ももキッズ」等、地域の未就園児が参加できる活動について、ホームページやポスターで定期的に情報提供をしている。

最終評価への改善点

取組内容①

- ・絵本室を整理していただいた保護者に意見を聞き、園児も返却時の取り扱いを丁寧にできるように指導することも必要である。

- ・おすすめ絵本や季節の絵本を紹介する手紙を配布したり、絵本を展示したりする。

取組内容②

- ・猛暑の時期や就園先が決まるころに、一旦参加者は減少する傾向にある。参加者は2歳児以下が多い。